

学習指導案(教科:古典)

1 授業内容

科目:古典(漢文)

単元:漁父の利

2 本時の指導計画と評価方法

(1) 単元の目標

- ・漢文訓読法に関する知識を確かなものとする。
- ・漁父の利がどのような故事から生まれたかを理解する。
- ・故事成語としての意味と用法を確認する。
- ・故事の裏にある寓意を理解する。

(2) 本時の目標

- ・本文の訓読から返り点と送り仮名をつける。
- ・漁夫の利の意味と用法、文中の例えをまとめる。

(3) 本時の評価規準

(関心・意欲・態度) 故事成語に関心を持って基となった漢文を読もうとしている。

(思考・判断・表現) 本文のたとえを正確に理解し、たとえ話がどういう意図でなされたかについて理解を深める。また、故事成語の意味を理解して、どのような場合に用いるか思考・判断することができる。

(知識・理解) 訓読法にかかわる基本的知識を身につけ、漢文のきまりや訓読の仕方を理解する。

(技能) 訓点のある漢文を音読し、さらに音読の読みから白文に訓点をつけることができる。

(4) 本時の展開

時間	指導の内容・ねらい	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (10分)	・既習の「漁夫の利」の内容を復習する。 ・漢文訓読の独特のリズムや文体に慣れる。	・授業者の範読に続いて、訓読文もしくは白文を見て音読する。 ・前時に学習した内容の確認を行い、重要語句を自分でまとめる。 →重要語句のまとめのふせんを配布	・基本的な項目(返り点・送り仮名)に従って正しく読めるか、置字を理解できているかなどを確認しつつ進める。 ・音読は漢文学習の基本なので、入門期であることを考慮し、何度も音読させる。 評価【関心・意欲・態度】 漢文独特のリズムに注意しながら音読しようとしている。
展開 (35分)	・漢文訓読の決まりの確認。返り点・送り仮名・置字を正しく理解 ・故事成語としての意味・用法を確認する。	・白文のふせんを配布 ・教員が繰り返し範読し、生徒は配布された白文に、返り点と送り仮名をつける。 (まずは返り点、次に送り仮名をつける。難しい場合は読む順番に数字を横に書く。) ・教科書の訓読文を見て赤ペンで各自添削後、提出機能で提出する。 ・授業者は提出されたものを閲覧し、一名の解答を選び、名前を隠して間違いの多いところを解説する。 ・意味・用法のふせんを配布 ・国語辞典で故事成語としての「漁父の利」の意味を調べ、ふせんに記入、例文を完成させる。 ・国語便覧で「戦国の七雄」を調べ、秦・超・燕の国の場所を確認する。 →EX-word	・書き下し文から、実際に基本的な項目(返り点・送り仮名・置字)が使えるか確認しつつ進める。 ・生徒により個人差があるので、考慮して丁寧に学習する。 ・提出された全員の解答を閲覧して、それぞれの理解度を確認する。 評価【知識・理解】 漢文の訓読に必要な返り点などのきまりを理解している。 評価【技能】 音読の読みから白文に訓点をつけることができる。 評価【思考・判断・表現】 故事成語の意味を理解して、どのような場合に用いるか思考・判断することができる。 ・漢文では、国の名前がたくさん出てくるので地図を見せて興味を持たせたい。
まとめ (5分)	文中の例えをまとめる。	・教科書のリード文をよく読ませ、「鵜」・「蚌」・「漁夫」がそれぞれどの国と対応しているかをグループで考える。 →まとめのふせんを配布する ふせんの()が記入できたら、グループの代表は解答を提出する。	・本文を十分理解させた上で、国の関係とたとえとの関連を理解させる。 ・たとえ話がどういう意図でなされたかを十分に理解させる。

(5) ICT活用計画

ICTを主に活用するのは、展開の部分の訓点を記入するワークである。

(手順)

- 1 教師は白文のふせんを生徒全員に配布する。
- 2 教師の範読を聞きながら生徒は、白文のふせんに訓点を書き込む。
- 3 生徒は教科書を見て赤で添削。その後、提出。
- 4 教師は提出された解答を閲覧し、その中から一名の生徒の解答を選ぶ。

- 5 一名の生徒の解答を、名前を隠して共有し、間違いやすい箇所を解説。
- 6 EX-wordの国語辞典で故事成語としての「漁父の利」の意味を調べる。
- 7 EX-wordの国語便覧で「戦国の七雄」を調べ、秦・超・燕の国の場所を確認する。

(ClassPad.netを活用する効果性について)

- 1 古典(特に漢文)の本文を黒板に板書するという、最大の手間が軽減され、授業が効率化される。
- 2 ワーク後、タイムリーに生徒の進捗状況を確認し、よく間違えるポイントを重点的に解説する。
- 3 EX-wordを効果的に活用し、様々な角度から漢文の読解を行う。